

大学英語教育学会（JACET）関西支部

2018 年度第 1 回支部講演会

The JACET Kansai Chapter First Lecture Meeting  
of the 2018 Academic Year

7 月 7 日から延期されました第 1 回支部講演会を下記の通り開催いたします。  
皆さまのご参加をお待ちしております！

The JACET Kansai First Lecture Meeting of this academic year will be held as follows:

**Date: 2018 年 8 月 19 日（日） 15:30–17:00**

Sunday, August 19, 2018, 15:30–17:00

**Venue: 神戸国際会館 805 号会議室**

Room 805, Kobe International House

（三宮「三ノ宮」駅から地下で直結。詳細は、

<http://www.kih.co.jp/access> をご覧ください。）

**Title: 高等学校指導要領に謳われた『英語の授業は英語で』  
の結果、影響、そして課題**

Consequence, Influence, and Problems of “Teaching  
English in English (TEE)” Required Through the High  
School Course of Study

**Speaker: 岩井千秋先生（広島市立大学国際学部教授）**

**Chiaki IWAI** (Professor, Hiroshima City University)

※ JACET 会員は無料，非会員は参加費 500 円。事前申込不要。

No need to pre-register. Free of charge for JACET members;

500 yen for non-members.

## Speaker's profile



### 岩井千秋（いわいちあき）先生

広島市立大学国際学部教授、30年以上にわたって日本の大学で教育・研究に従事。現在、JACET 中国・四国支部長、JACET 理事。2009年に同支部で Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会を立ち上げ、2017年まで代表を務めた。EFL 学習者によるコミュニケーション方略の使用や中間言語語用論的能力の習得について研究、最近は「英語授業を英語で行う (TEE)」ことの是非について研究を行っている。学部で数学教育を専攻（広島大学）した後、テキサス大学エルパソ校で修士（言語学）、広島市立大学で博士号（論文博士）取得。

## Abstract

英語の授業を英語で行うことの是非はこれまで多くの研究者や英語教師によって繰り返し議論されてきました。近年では教える内容や学習者のニーズに応じて学習者の L1 を効果的に使用すべきという考えが主流になりつつあります。しかし、そんな中、2013年に施行された高等学校学習指導要領には「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」基準が盛り込まれ、世間の耳目を集めました。

講演者は、指導要領のこの基準がやがて大学に入学してくる学生に何らかの影響を及ぼすと予想し、5年前の2014年に6名の研究仲間とともに、経年的にその影響を調査するプロジェクトを立ち上げました。そして、2014-2017の間にアンケート調査（大学生回答者数、延べ約6千名）や面接調査（大学英語教師24名、学生30名）を行いました。収集データを分析した結果でもっとも重要な点は、指導要領に盛り込まれた基準は学習者にほとんど影響しなかったことです。講演ではこの研究調査の結果を紹介するとともに、参加者の皆様と一緒に、何がこの教育政策の問題であったのか、さらに日本のような状況で TEE を実践するのに何が必要かについて考えてみたいと思います。

※使用言語は日本語です。質疑応答時は英語・日本語どちらでも可です。

Main language for presentation: Japanese. English & Japanese in the Q&A session.

※For English information, please see the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/>).